

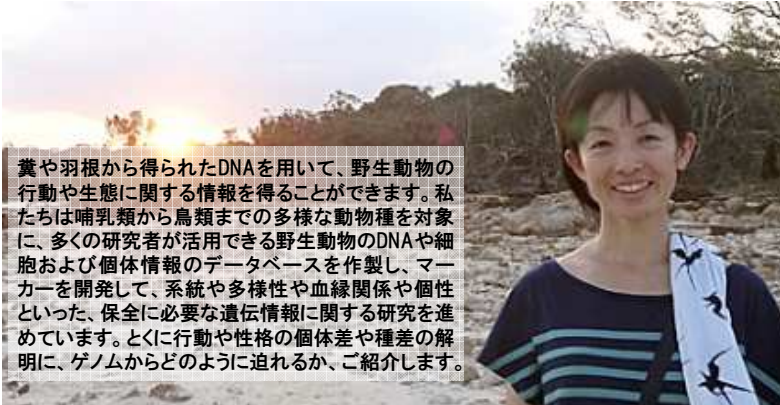


詳細はこちら



フィールドとラボと社会をつなぐ野生動物研究

野生動物を直接観察する機会には多くはありませんが、飼育下あるいは試料の解析から得られる情報があります。今回のセミナーでは、ゲノム、ホルモン、行動、展示の面から、研究者がこれまでに展開してきた、フィールドとラボと社会をつないで野生動物保全を目指す活動について、ご紹介したいと思います。また女性研究者の活躍を知る機会にもなればと願っています。



糞や羽根から得られたDNAを用いて、野生動物の行動や生態に関する情報を得ることができます。私たちは哺乳類から鳥類までの多様な動物種を対象に、多くの研究者が活用できる野生動物のDNAや細胞および個体情報のデータベースを作製し、マーカーを開発して、系統や多様性や血縁関係や個性といった、保全に必要な遺伝情報に関する研究を進めています。とくに行動や性格の個体差や種差の解明に、ゲノムからどのように迫れるか、ご紹介いたします。

村山 美穂
野生動物研究センター・教授

動物の行動を
遺伝子からみる



チンパンジーやオランウータンなどの大型類人猿は、ヒト科に分類されていて、進化的にヒトに近い生物です。彼らの心や、くらしを研究すると、ヒトの特徴が見えてきます。さらに、チンパンジーとヒトの子どもの発達を比べる研究から、両者が似ている部分とちがう部分が見えてきました。進化と発達の視点を組み合わせ、野生でのくらしや森の中で発揮される知性にも目を向け、ヒトの知性がどのような進化的基盤の上に成り立っているのか探ってみます。

林 美里
霊長類研究所・助教

大型類人猿の研究から
ヒトを知る



“ホルモン”とは、生物のさまざまな生理現象を調整している物質です。生物を取りまく環境（気候や社会などが変わると、それに合わせて体内環境を調整するためにホルモンが分泌されます。私は、動物園や野生下など、さまざまな環境下にある動物たちのホルモンの動き（濃度変化）を分析してきました。ホルモンを分析すれば、動物たちの外見からは分からない内面を知ることができます。ホルモンからどのようなことが分かったのか。ホルモン研究から分かった彼らの本音？をご紹介します。

木下 こづえ
野生動物研究センター・助教

動物を取りまく環境を
ホルモンからみる



なぜ私たちは動物園に行くのでしょうか？ 取っ組み合って遊ぶ子ザルを見れば楽しい気分になりますし、わが子を抱く母ザルを見ればやさしい気持ちになります。マンダリルの鮮やかな顔には「なぜ？」と思わずにはいられないでしょう。動物園は、動物の福祉に配慮しておこなわれる多様な研究により、私たちに新しい発見をもたらしてくれる知の宝庫です。今回は日本モンキーセンターでおこなわれている研究や展示をご紹介しながら、動物園と研究と保全について考えます。

赤見 理恵
日本モンキーセンター・主任学芸員

野生動物研究と
“あなた”をつなぐ動物園

プログラム

※事前登録不要：当日11:00より日本科学未来館7階で入場整理券を配布いたします
※参加費無料：本フォーラムのみの参加の場合は、日本科学未来館への入場料は不要です
科学未来館の展示見学をご希望の場合は別途入場券をお買い求めください

日時 平成29年 **10月1日** (日)
13:30-16:30

場所 日本科学未来館 **7F 未来館ホール**

主催 京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

共催 京都大学霊長類研究所／
京都大学野生動物研究センター／
公益財団法人日本モンキーセンター

協力 日本科学未来館

